

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成20年4月22日 開始10時00分～終了15時30分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム みどりの風 (鹿児島県)
評価調査員の氏名	氏名 腰 高行
	氏名 石松 成子
事業所側対応者	職名 管理者
	氏名 竹下 智行
	ヒアリングを行った職員数 (2)人

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 2008年4月15日

【評価実施概要】

事業所番号	霧島市指定 第4691200077号
法人名	社会福祉法人 希望ヶ丘福祉会
事業所名	グループホーム みどりの風
所在地	鹿児島県霧島市横川町中ノ5645-1 (電話) 0995-72-9054

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6
訪問調査日	平成20年4月22日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 4月25 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤(兼務)10人、非常勤3人、常勤換算	7

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	(平屋) 建て 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,500 ~ 21,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 900 円			

(4) 利用者の概要(4月1 日現在)

	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 84.7 歳	最低 76 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊東内科クリニック 永利歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

本体法人の運営する特別養護老人ホームに併設して、小規模多機能ホームとこのグループホームが同じ建物内にある。特別養護老人ホームのもつ在宅サービスや多機能ホームの利用者、職員との交流が多く、サービスの多機能性のあるホームである。当ホームは空気の澄んだ環境にあり、利用者中心にのびのびゆったりとした生活が営まれている。開設から1年未満であり、これからグループホームとしての運営を高めて行こうとしているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初回の評価であり該当事項無し 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者が主体となり、職員に提起するかたちで自己評価を行っている。評価の持つ意義について、職員の意識が徐々に高まって行こうとしている状況にある。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 外部評価は初回であるので評価の報告と改善への取り組みは今後の課題であるが、会議では利用者、家族も参加して、日々の取り組みの報告などして意見をもらっている。老人会の委員から行事への参加の誘いや、市の健康教室の情報なども伝えられ、利用者の活動の拡大につながっている。
重点項目②	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 面会日を利用して要望が伝えられており、ミーティングや連絡帳にて職員が把握して改善に取り組んでいる。運営推進会議に家族が参加し、意見を言える機会を作っている。苦情については受付担当者のほかに職員による苦情処理委員会が設置されている。第三者機関等については、入所時に説明されている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 特別養護老人ホームを中心とした施設群の中にあり、近くに民家はほとんどない。これらの施設の職員や利用者たちとの交流がある。地域の代表者等とは交流があり、行事等への参加をしており、地域に孤立しているという状況ではない。地域に出かけているような活動も展開している。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

主任調査員 腰 高行 / 調査員 石松 成子

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)取り組みを期待したい項目	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の方々との交流を深める機会を多く持ち、地域に溶け込んだ暮らしを支援する、という地域密着型サービスとしての理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を認識しており、日々のケアにおいても朝夕のミーティングで確認し合っている。また、毎月の全員参加の職員会でも理念の実践に関して、個々のケアを通じて話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くに民家はあまりないが、特別養護老人ホームを中心とした施設群の中にあり、これらの施設の職員や利用者たちとの交流がある。地域の代表者等とは交流があり、行事等にも参加したり、地域に出かけていろいろな活動も展開している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が主体となり、職員に提起するかたちで自己評価を行っている。評価の持つ意義について、職員の意識が徐々に高まっている。自己評価の中から、いくつかの改善点も気づいて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者、家族も参加して、日々の取り組みの報告などをして意見をもらっている。老人会の委員から行事への参加の誘いや、市の健康教室の情報なども伝えられ、利用者の活動の拡大につながっている。		

グループホームみどりの風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) 取り組みを期待したい項目	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当課によく出かけ、グループホームの現状や悩みなどを話し、助言をもらっている。また、関係職員にホーム便りを配布して交流を深めるよう努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや職員の異動に関しては、毎月のためよりで家族に伝えている。また、金銭管理についても出納帳で家族に報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>要望については、面会日を利用して聞くようにしている。ミーティングや連絡帳にて職員が把握して改善に取り組んでいる。運営推進会議に家族が参加し、意見を言える機会を作っている。苦情についても受付担当者のほかに職員による苦情処理委員会が設置されている。第三者機関等については、入所時に説明されている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>年3回の管理者と職員の個人面談で、個人的事情や職務に関する意見などを聴取して、改善などを行い、離職対策を進めている。新人研修を強化して、交代をスムーズにさせて利用者には不安がないようにしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修では、グループホーム関連研修から接遇研修など受ける機会を提供している。また、内部研修は、毎月の在宅会議や勉強会などほぼ全員参加している。又、資格取得の支援もしている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区連絡協議会および近くのグループホームとの交流がある。また、小規模多機能ホームとの勉強会も持っている。</p>		

グループホームみどりの風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) 取り組みを期待したい項目	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	開設以降、新規利用者はいない。開設時は不安の軽減に努め、馴染みの関係を構築した。今後は、小規模多機能ホームの宿泊を利用した関係作りを進める予定である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者もできることがたくさんあることを、職員が気づいてきている。味噌作りなどこのホームでは、生活の一環となっており、ともに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の生活の中で、何気ない言葉、表情をよく汲み取り、利用者の意向として支援に努めている。これらの意向は、朝夕のミーティングで記録し、口頭や連絡帳で確認しあっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議で家族の意見を聞き、また、職員の情報を取り入れて、利用者がホームを中心により良い暮らしができるような介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が悪化したとき、ミーティングや連絡帳で情報を交換して、見直している。変化の少ない利用者の見直しが画一的に長期間となっている。	○	各利用者について、定期的な点検と見直しが望まれる。

グループホームみどりの風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) 取り組みを期待したい項目	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族・利用者からの墓参り、外泊、通院などの希望に柔軟に対応している。小規模多機能ホームの利用者とともに進める時もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前のかかりつけ医との関係を大切にして、定期的な受診を支援している。また、必要なときにも受診や往診などの連携をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とホームで共有していることは、ホームは可能な限り看取りをするが医療が常時必要なときは特別養護老人ホームなどの対応をしていきたいという方針である。入所時に口頭で家族の同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の個人情報の管理については、誓約書をとっているので徹底している。管理者は、職員によるプライバシーの侵害や誇りを傷つける言葉づかいについて繰り返し指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝寝をして朝食を10時ごろ摂る利用者もいる。少し時間を制限したりするのは行事の時だけで、普段は希望にそって支援している。		

グループホームみどりの風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) 取り組みを期待したい項目	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が何が好物かおおよそ把握している。食べない料理は好きな料理に代え、食事を楽しむように支援している。職員と利用者で食事の準備、片付けをしている。職員も一緒に食べながら、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴ができる。1日何回も入る利用者もいて、ゆっくり楽しんで入っている。自分の入る時間を決めている利用者もいてある程度自由な支援ができています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の管理、洗濯物干したたみ、食事の準備や片付けや毎日の掃除などの能力に応じた役割や、歌やレクリエーションなどの楽しみごと、菜園作りや買い物などの気晴らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望が多いドライブをよくしている。また、小規模多機能の送迎車に乗せてもらったりしている。庭や遊歩道の散歩や外でのお茶飲みもしている。出たがらない利用者にも声かけを欠かさず、何回かに1回でも出るように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を認識して、日中は施錠していない。職員の見守りで対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火、避難訓練は、消防署の協力を得て年2回実施している。備蓄の物品については、特別養護老人ホームと連携して備えるように検討中である。		

グループホームみどりの風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) 取り組みを期待したい項目	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事および水分摂取量を記録している。食事量の少ない時は、補助的な飲食物を提供するなど適切に支援をしている。カロリー摂取量については、特別養護老人ホームの栄養士の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は落ち着いた明るさで、音やにおいにも配慮されている。季節の草花もさりげなく飾られ、生活の場全体的にバリアフリーになっており、生活しやすくなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は画一的ではなく、家族の写真や使い慣れた椅子などが持ち込まれて個性が出されている。また、利用者の意向でふとんを使用したりして、利用者本人が生活しやすいようにしている。		